



□ 発行 芳賀町工業団地連絡協議会

□ 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台 98

□ TEL 028(677)5033

□ <http://www.hokoren.com>

□ E-Mail : information@hokoren.com

□ 編集責任者 渡辺 信夫

■ 第4回役員会を開催

第4回役員会を3月19日開催しました。

細岡会長は会議に先立ち「現在、新型コロナウイルスの話題一色です。政府の要請を受け、各企業の皆様も、対応に御努力されていることと思います。デマによって生活に支障が出たり、嫌な思いをする方の話を見聞きしたりするたびに不安になります。このような状況下で、何かの思惑によって心理誘導されたり、差別されたりする雰囲気、私は怖いです。



コロナウイルスに感染リスクは、ご自身の体調管理、生活管理が一番です。感染したとしても誰の責任でもありません。慌てず落ち着いて会員企業様のマネジメントをお願いいたします。

団管連主催の県知事との意見交換会も延期されました。会員企業の皆様にご協力いただいた景況調査を報告する予定でしたが、残念です。内容は、芳工連だよりにまとめられておりますが、今期状況と来期の見通しについて前年比どのタームにおいても悪化の回答が大幅に増えております。消費税増税や台風被害による影響に加え、新型コロナウイルス拡大による経済への影響が懸念から現実味を帯びてまいりました。こういう時こそ、マネジメントの力量が試される時ですが、実行できる施策は限られております。芳工連としては、「民・官・学」と連携した情報収集を最優先し得た情報を速やかに会員企業様に共有することを最優先に展開してまいります。

結びに、本日は芳工連今期最後の役員会です、春は人事異動の季節でもあり、芳工連役員の中でも県外に異動される方がおられ、5月の総会を待たずに交代されますので、この場をお借りしてお礼申し上げます。皆様、大変な状況ではありますが、今期最後の役員会活発な議論をお願いいたします」などと挨拶しました。

報告事項の事業実績及び収支決算見込み、30周年記念事業の事業実績及び収支決算見込み並びに正副部長人事の3件については、全員の賛成で承認されました。また、協議事項は次年度の事業計画(案)及び収支予算(案)、役員人事、退任される役員・正副部長に対する表彰金の贈呈など5議案で、いずれも全員の賛成で可決・決定しました。

また、第31回通常総会を5月22日(金)午後3時30分から管理センターで開催することを決定。これに先立ち4月24日(金)午後1時30分からは総会に上程する議案を審議する役員会を正副部長の同席を求め開催することを決定しました。

■ 4部会 事業実績及び次年度計画(案)など審議

■ 総務企画部会

第3回総務企画部会を3月3日、10社10名の参加により開催しました。中山部会長は「新型コロナウイルスの対応に皆様ご苦労されていることと思います。本日は来年度に向けての協議、任

期満了に伴います正副部会長の選任等よろしく申し上げます」と挨拶しました。

本年度の事業実績と決算見込みが承認され、令和2年度の事業計画（案）を決定しました。

次年度の主な事業計画は、会員相互の情報交換や親睦を深めるスポーツ大会、新入社員基礎研修や初級管理者研修などの人材育成研修です。予算（案）は前年同額（900千円）で決定しました。

役員改選については、中山部会長が退任し藤井副部会長が部会長となり、吉富副部会長は留任、新たに(株)不二ロジカーゴ 南木健二氏が副部会長に就任することで決定しました。



■ 環境整備部会

第3回環境整備部会を3月5日、10社10名の参加で開催しました。

半田部会長は「お忙しい中ご出席をいただき感謝します。また、皆様のご協力で予定した事業を無事に執行することができ感謝いたします。本日は事業の実績と次年度計画についてご意見をお願いします」と挨拶しました。

本年度の事業実績と収支決算見込みが承認されました。

令和2年度事業計画（案）は、本年度と同様に工業団地内の環境整備推進活動、環境美化の向上に資するクリーン作戦などの実施を決定するとともに、予算（案）は前年と同額（400千円）で決定しました。

役員改選については、半田部会長が退任し新たに東上ガス(株)木村隆広氏が部会長に就任、また阿部副部会長、鎌上副部会長は留任することで決定しました。



■ 安全衛生部会

安全衛生部会の第3回部会は3月6日、8社8名の参加により開催しました。

山田部会長が「12月1日に前高山部会長から引き継いで3月が過ぎましたが、この間皆様のご協力により予定した事業を無事に執行することができ感謝いたします」などと挨拶しました。

本年度の事業実績及び決算見込みが承認されました。

令和2年度の事業計画（案）は、本年度と同様に普通救命講習会、健康づくり事業、安全活動事例発表会、危険予知訓練研修会などの開催を決定し、優良企業視察研修会の主担当となることを確認しました。また、予算（案）は今年度実績を踏まえ400千円に減額することで決定しました。

役員改選については、山田部会長、大久保副部会長は留任、小堀副部会長の後任に(株)ショーワ 荒井 治氏が副部会長に就任することで決定しました。



■ 交通防犯部会

第3回交通防犯部会は3月11日、14社14名の出席で開催されました。

川崎部会長は「昨年の町内死亡事故件数は0件で前年比△4件、県内死亡事故件数は82件で前年比△7件と減少しています。交通環境整備ではJRバスターミナル出入口に停止禁止の表示、歩道植栽の伐採や植栽柵舗装、中央分離帯の舗装、信号タイミングの試行などが県や町により実施

されています。また、自動車盗難が多発中ですのでご注意ください」などと挨拶しました。

協議事項の事業実績及び決算報告、令和2年度事業計画（案）及び収支予算（案）の2案件とも、全員の賛成で原案どおり承認されました。予算（案）は交通安全啓蒙用のぼり旗等の購入を考慮して400千円に増額することで決定しました。

役員改選については、本田技研工業(株)様の事業運営体制の変更に伴い、部会構成にも影響があることから、川崎部会長に一任することで決定しました。後日、川崎部会長は留任、雨宮副部会長、田野辺副部会長の後任には山王テック(株)諏訪啓道氏、(有)田野辺運送店 奈良孝行氏が就任すると連絡がありました。



■ 福島第一原子力発電所を視察

2月27～28日福島県主催の「企業の人材育成研修プログラム体験モニターツアー」に7社17名の皆様が参加しました。このツアーは福島県が企業向け研修用商品として開発に取り組んでいるもので、原発事故の教訓から「危機管理マネジメント」を、浪江町の復興への挑戦から「対話型組織開発」を学ぶことを目的としています。

一行は東京電力廃炉資料館（富岡町）に到着後、原発事故の事実と廃炉事業の現状など説明を受けてから専用バスに乗り、国道6号線を一部帰還困難区域内を通過して福島第一原子力発電所（大熊町）に向かいました。

構内事務所で東京電力ホールディングス(株)福島復興本社 坂本部長から復興推進活動、除染活動、原子力損害賠償、風評払拭への取組や構内の96%のエリアは一般作業服で立ち入ることができるなどの説明を受けた後、全員が線量計を首から下げ、構内専用バスに乗り約1時間案内をいただきました。

原子炉に注水中の1～3号機原子炉建屋近くの放射線量は高くなりますが、燃料取出しが完了している4号機建屋前は低い値でした。1号機の剥き出しのガレキなどを見て、参加者一同事故から9年経過しても廃炉作業は進んでいないと感じていました。

視察後一行は、浪江町フィールド学習で浪江駅前周辺の廃墟となった街並みを歩いた後、津波被害にあった請戸地区を訪れ、更地の中に遺構として残した小学校（児童は徒歩で高台に避難し全員無事でした）や、車で避難中に津波にのまれた犠牲者などを吊うため街を見下ろせる高台に新設した大平山霊園を見学し、浪江町スポーツセンターに向かいました。

センターでは「リスクマネジメントに関するケーススタディ」を4グループに分かれ、国会事故調報告書をもとに震災・原発事故の教訓からリスクの捉え方、判断・対応、企業の社会的責任を果たすための組織の在り方等について考えました。グループ発表の際には、地震に対する耐力不足、



帰還困難区域内の国道6号線（出入口等にバリケード）

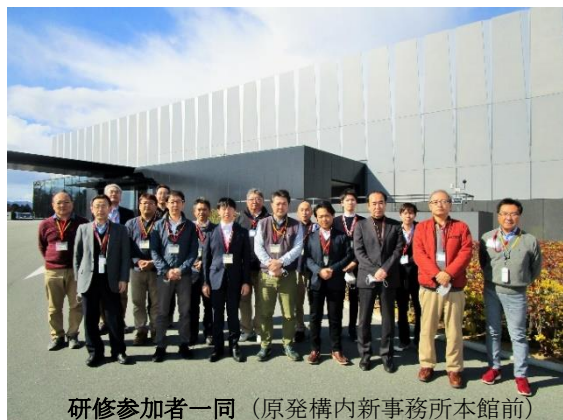


ガレキが剥き出しの1号機建屋



1号機建屋近くの線量計(34.4 μ Sv/h を表示)

認識していながら対策を怠った津波リスク、国際水準を無視した重大事故対策など想定できたのに対策を講じていなかったが、「未経験のものをリスクとして捉え、優先度を高めるといった判断をするのは難しいのでは」という意見もありました。参加者一同「組織内外の忖度・馴れ合い、国民の命を守るより組織の利益を優先した結果、何度も機会がありながら安全対策を怠ったため大事故につながった」という教訓は、組織の危機管理の難しさを知る機会となりました。



研修参加者一同（原発構内新事務所本館前）

2日目は、(一社)まちづくりなみえ 菅野事務局次長から「前代未聞の人口ゼロからのまちづくりへの挑戦」として、浪江町復興支援コーディネーターに採用され、被災地復興、まちづくり計画作成・調整支援、住民との合意形成支援、そして町長意向のまちづくり会社の設立など、これまでの取組について説明を受けた後、前日の4グループに分かれて「復興事業から学ぶ対話型組織開発に関するケーススタディ」に取り組みました。その中で、菅野次長は浪江町役場内の人間関係の構築から住民との合意形成（人と人）、復興庁・福島復興局と町の関係においては各担当者の連携から組織どうしの連携へと、人事異動があっても事業が継続できる組織体制の構築が重要と訴えていました。また、対話する時は理解してもらえよう言葉を選ぶことも大事と話されていました。



2日目のケーススタディでの発表

(一社)まちづくりなみえは、交流・情報発信拠点として国道6号線沿いに道の駅を整備中で、町民雇用、町民による震災伝承、地域コミュニティ再生・地域活動などの実現から、来訪者（交流人口）の増加へと町の賑わい創出に向けてチャレンジを続けています。

2日間を通して参加者一同は、震災・原発事故は悲惨だったが、皆さん前を向いて歩いており、安全が確保された農林水産物のみが出荷されているにも関わらず、検査の実施やその成果を知らない人が多いため、価格の低迷や風評被害が続いていることから、福島の産物も安全だよとPRして福島支援をしていかなければと強く感じたところです。

■ お知らせ

- ①管理センターの会議室は会員企業様のみ利用可能（但し、名簿（所属・氏名）提出、マスク・手洗い）ですが、体育館は4月末まで利用できません。
- ②4月1日（水）から芳賀町工業団地管理センター敷地内は、喫煙所（大会議室ロビー北側屋外）以外は**禁煙**となります。
- ③春の交通安全運動期間は4月6日（月）から15日（水）まで。7日（火）に工業団地管理センター前交差点で街頭広報活動を実施します。

＜ 芳工連日誌 ＞



喫煙所

【3月の実績】

3日 総務企画部会
5日 環境整備部会
6日 安全衛生部会
11日 交通防犯部会
19日 第4回役員会
25日 資源ごみ回収

【4月の予定】

8日～9日 新入社員基礎研修
14日 管理センター管理組合会計監査
22日 資源ごみ回収
24日 役員・正副部長合同会議
24日 管理センター管理組合総会
28日 芳工連会計監査